

# はくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '86 11月号

## ☆行事案内☆

11月

1	土	古文書講読会
5	水	"
8	土	土曜観察会／石仏を調べる会
9	日	自然観察会（愛川町中津）
"	"	巣箱づくり
13	木	星を見る会「水星の日面経過をみよう」
22	土	土曜観察会／石仏を調べる会
継続行事		
2～29 植物の分布を探る（寄贈品コーナー）		
1～12/25 プラネタリウム「観測の鬼チコ・ブラー物語」		

12月

6	土	古文書講読会
7	日	自然観察会（酒匂川）
13	土	土曜観察会／天体観察会（七国荘）／
"	"	石仏を調べる会
継続行事		
2～27 歴史（寄贈品コーナー）		

### ご希望の方はどうぞ

- プラネタリウム「観測の鬼チコ・ブラー物語」  
望遠鏡がなかった時代に、星の位置を目で精密に計り続けた天文学者がいました。その人の名はチコ・ブラー。その観測は、後に地動説を立証するものとなりました。

期間：11月1日（土）～12月25日（木）

### ●寄贈品コーナー

「植物の分布を探る」11/2～11/29

現在、神奈川県では県立博物館を中心に、全県的な植物調査が進められています。多くの市民の方々の御協力で当館にも、基礎資料としての植物標本が約3万点、収蔵されています。その一部を展示し、分布を調べる方法や意義について紹介します。

### ●星を見る会「水星の日面経過を見よう」

水星が太陽の手前を通過して行く珍しい現象を観察します。

日時 11月13日（木）10時半～15時

場所 博物館屋上

参加自由、上の時間内にいつでも見られます。

### ●自然観察会（生物）

#### 「酒匂川で水鳥を見る」

日時：12月7日（日）9～16時 雨天中止

場所：酒匂川飯泉橋付近

内容：カモ類、カモメ類など川で見られる野鳥を中心に観察する。

申込み：11月25日（月）までに往復ハガキで。

多数の場合は抽選で30名まで。

### ●第101回体験学習お飾りを作ろう

正月の玄関飾り、ごぼうじめ、一文かざりなどを作ります。

日時：12月20日（土）9時半～15時

場所：博物館科学教室

申込み：12月10日までに往復ハガキで。50名まで。

## 「道具の歴史展」

### 展示

もう1つの仕事



・選び出して順番をきめる。

博物館には大勢の人があります。展示を見にくるのは当然ですが、畑から出て来た土器のかけらを持って、道端の草の名を尋ねに、先日はピンク色のバッタを捕まえたといって、4人の中学生がやって来ました。夏休みになると各大学から実習生もやって来ます。今年は14名でした。大学で学んだことを実際の場で確かめ、どう活かすかがその内容なのでしょうが、2週間という期日のなか、いささか勝手の違いに戸惑いながらも、土器を整理したり、浜に魚の大きな網を貰いうけにいって大汗を流し、学芸員というのは実に力のいる分野の仕事だったと、認識を改めていたようです。

さて「道具の歴史」と銘うつた展示は、実習生によってなされた仕事です。もうご覧になった方も多いと思います。暮らしの基本“食”にスポットをあて、日々の道具を対比させることによって道具の歴史を語らせようと企画しました。食を保存し貯えておくかめ、煮たり蒸したり炊くための道具、入れて盛って供える器まで……こうして並べ



・テーマパネルをつくる



・解説パネルをつくる

てみると、単品で、とりすました展示を見るより、そこにかかわったであろう人々の動き、差しのべられた手、かわされた話のはしばしまで、対する人の視野の中に想い起されるような気が、してきませんでしょうか。

展示の方法にはいろいろあります。当館でいえば一階の展示は子供達がお化け屋敷と呼ぶ程の臨場感があるので、古代人の生きた暮らしの諸様相が鮮明に描き出せます。二階はさまざまの資料が並

ことによって、見えなかつたものが見え出し、今ここに有る物がもつ意義や尊さが、わかってくるのだと思います。素材、形こそ異っていても土器で暮した人達と電気機具の便利さを享受している現代人とを、暮しという所でくくってみれば、案外ナアンダって驚く結果になるかも知れません。集めて保存するのも大切な仕事ですが、何を選びどう展示するかということも、博物館ではとても大切な仕事なのです。

博物館は開館十周年を期して、展示替えをしました。そこで展示のミニ解説を毎号紙面の4頁に特集します。ここが見どころという要点解説ですから、お役にたてると思います。分からぬところ、もっと知りたいと思う方は、3階の研究室をお訪ねください。  
(和田)

べられているので、逆にどう見たらいいのか一寸戸惑う気がしないでもありません。しかし見ているうちに、ハアと合点したり、どうしてだろうと疑いを持つ自分に気付いたことはないでしょうか。別の言葉でいふと、これは展示されている物の方からの語りかけに、それぞれのやり方で知らずに応じているということなのです。

物を物として突き放して見るだけでは、何もおこりません。自分の中にとり込み、比べたり考えたり、想いを巡らし暮らしと重ねあわせてかかわる

ここが  
見どころ

## 縄文時代のくらし

※二階展示コーナー⑦

私たちの生活の母胎となった縄文時代の人々は、どのようにくらしをしていたのでしょうか。右の写真は一階展示室にあるジオラマ「五領ヶ台のくらし」の一部分です。家の内で、女性が土器で食を煮ている場面です。周りに土器、石斧、棍棒、カゴ、敷物などの日常生活具や食物が置かれています。展示では道具と食物をとりあげました。

道具の中でも、土器は煮沸・貯蔵・供膳具としての三つの機能をもっています。土器の出現が縄文時代の幕明けといわれるよう、食生活において画期的な役割を果しました。つまり、物を煮ることによって、今まで食べられなかつたものが食べられ、硬いものが軟かくなることによって老人や幼児の食生活に大きな影響を与えたことです。また腐食の防止、食物の保存と貯蔵を可能にしたことです。

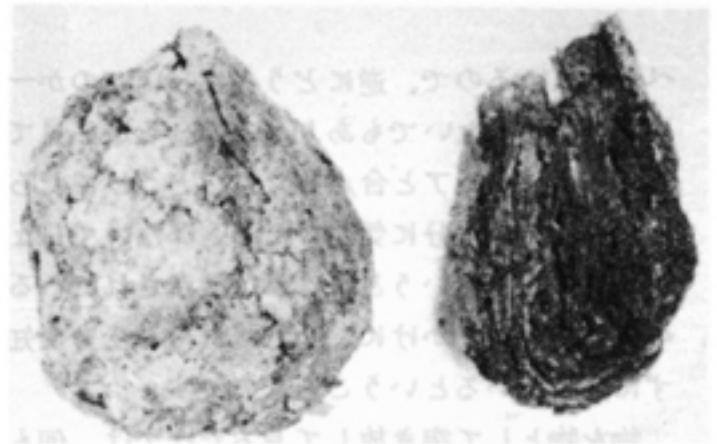
### —道具と食物—



土器は様々な器形や文様が展開されていきますが、その本質は物を煮る器であり、現代にまで受け継がれています。

**奇妙な土器** 岡崎上ノ入B遺跡から出土したもので、その形態から有孔付土器といわれています。大きさは高さ44cmで樽形をし、器面には赤彩が施されています。胴部中央に頭・手・足と思われる文様がありますが、人体なのか、カエルなのか、またその表現された内容がどのような意味をもつものかよくわかりません。この器は酒道具と考えられ、祭りのあるごとに、酒を造り、饗宴を行なったものと考えられますが、謎を秘めた土器の一つです。よくご覧になって下さい。

**非常食料** 同じく上ノ入B遺跡から出土した炭化球根で、荒く織った籠のなかに保存されたような



状態で検出されました。キツネノカミソリといわれるもので、ヒガンバナと同様にアルカロイドという毒を含んでいますが、食用とするには水晒しなどを必要とします。多分非常食として保存されたのではないかでしょうか。それぞれの資料には古代人の知恵が豊富に現されています。それを発見するのも、一つの展示の見方かと思います。(明石)